

生命科学連携推進協議会 社会との接点活動班
文部科学省 新学術領域研究 2019年度市民公開シンポジウム
「ゲノム編集の現在地 - 社会とともにある科学研究 -」結果報告

1. 概要

登壇：井上 純一郎（東京大学医科学研究所・生命科学連携推進協議会）
山本 卓（広島大学大学院統合生命科学研究科・日本ゲノム編集学会）
伊川 正人（大阪大学微生物病研究所）
山口 照英（日本薬科大学薬学部・金沢工業大学・内閣府生命倫理専門調査会「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」見直し等に係るタスク・フォース）
詫摩 雅子（日本科学未来館）
青野 由利（毎日新聞論説室専門編集委員・内閣府生命倫理専門調査会）
加藤 和人（大阪大学大学院医学系研究科・内閣府生命倫理専門調査会）

日時：2019年9月14日(土) 13:00～17:00

場所：日本科学未来館 未来館ホール（東京都江東区青海）

主催：文部科学省新学術領域研究 学術研究支援基盤形成 生命科学連携推進協議会

共催：内閣府、日本ゲノム編集学会

文部科学省新学術領域研究 学術研究支援基盤形成

「先端モデル動物支援プラットフォーム」、「先端バイオイメージング支援プラットフォーム」、「先進ゲノム解析研究推進プラットフォーム」

後援：大阪大学 21世紀懐徳堂、日本科学未来館

2. 参加者数

一般：140名

3. 結果

140名に及ぶ皆様にご参加いただき、ゲノム編集技術に対する市民の関心の高さがうかがえた。

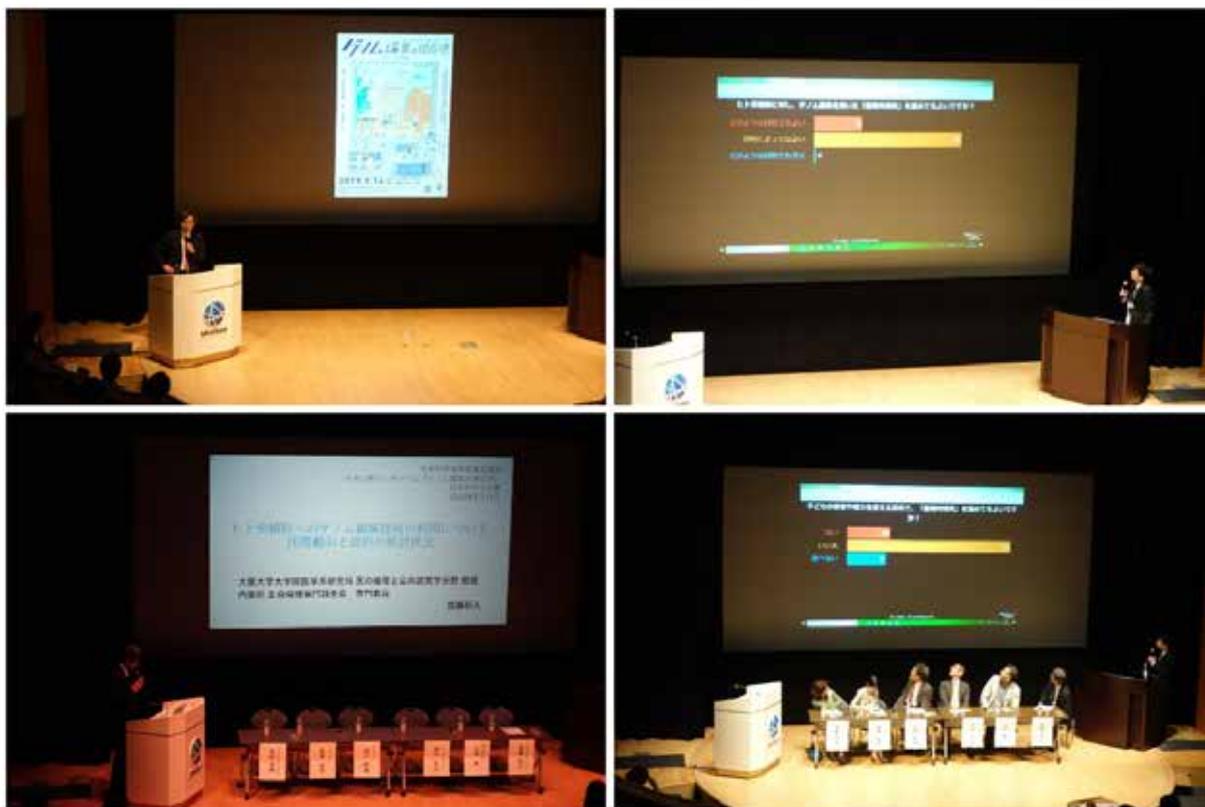
本シンポジウムでは、ゲノム編集に関する研究で活躍されている山本氏、伊川氏、山口氏から最新の研究動向についてご紹介いただき、科学未来館の詫摩氏から科学と市民の関係についてご講演いただいた。続いて、毎日新聞社の青野氏から指定発言をいただいた。

パネルディスカッションでは、内閣府生命倫理専門調査会の加藤氏より、内閣府での検討状況が報告された。会場からの質問やコメントに対して各登壇者が応答し、活発な議論が行われた。

参加者によるネットアンケートでは、その回答結果をリアルタイムで共有した。設問によっては登壇者が予期していなかった結果もあった。

今後も、市民の皆様と研究の最前線を走る研究者が、共に議論を深めていける機会を継続的に提供していく。

4. 当日の様子 (写真)



以上